

中野区 道路維持工事を終えての反省事項

材料の計量ほか

1. 添加水量

材料練りにおいて、最も重要なことは可能な限り、同じ固さ（同スランプ）に保つことです。配合材である、骨材の濡れ具合から添加する水の量を加減する必要があります。練りあがり状態のスランプを見ながらの人の目による管理であるので、工事中一貫して同じ作業員の管理に委ねることをお勧めします。また、添加する水量にあわせた容器を用意することで施工管理のプレを小さくするように勤めることが望ましく、関係者に品質管理への姿勢をアピールする効果があります。（カタログには施工管理を整合化するために重量でなく容積であらわしています。）

2. 骨材の計量

添加水量と同様にカタログには容積計量で管理するよう表示していることから、1バッチに見合う容器の数を用意することで品質管理への姿勢をアピールするよう努めてください。

3. 計量器の準備

使用する頻度は少ないが、計量状況写真を取る必要があることも多いので、バネ秤を用意することをお勧めします。（とくに役所仕事においては必需品と思ってください。）

左官工事における注意点

1. 使用目的

左官による施工では転圧による締め固めができないため、車両の乗り入れなど重量载荷の可能性のある場所では不向きです。一般家庭の庭の防草、温度抑制などに限った重量のかからない場所に限定してください。

2. 材料の練り按配と施工計画

材料は少しやわらかめに調整するよう心がけてください。伏せこむ力が小さい場合、材料が固いと骨材どうしの密着が十分施されることが考えられます。また、材料が固いと表面の骨材を伏せこむ作業において施工者に負担がかかりすぎ、凹凸を押さえて平滑な仕上がりとするのが困難となります。

人手に頼る作業を避けるため、トロウウェル（回転ゴテ）の使用を前提に施工計画をはかることをお勧めします。トロウウェルの使用ができない場合、しっかりした押さえ作業を求められるのは15㎡/人程度までと考えてください。しっかりした押さえができない状態は、後日骨材の飛散の原因となります。